

注3

大学番号：私442

[平成20年度設置]

計画の区分：学科の設置

注1

届出

四天王寺大学 人文社会学部 英語文化学科

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 四天王寺学園
平成23年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 総務課

職名・氏名 マス イ カツ ヒロ
榎 井 克 廣

電話番号 072-956-9913

（夜間） 072-956-3181

F A X 072-956-9940

e-mail k-masui@shitennoji.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は届出時の基本計画書の「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

届出時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には認可時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部

(□□学部)

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

3 大学番号の欄については、平成23年3月11日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 四天王寺学園

(2) 大学名

四天王寺大学

(3) 大学の位置

〒583-8501

大阪府羽曳野市学園前三丁目2番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	届出時	変更状況	備考
理事長	(モリタ シュンロウ) 森田 俊朗 (平成17年4月)		
学長	(オクダ セイメイ) 奥田 清明 (平成16年4月)	(ウスイ ミネオ) 碓井 岑夫	任期満了による変更(20) 任期満了による再任(22) (平成20年4月)(平成22年4月)
学部長	(ミナミタニ ミホ) 南谷 美保 (平成20年4月)		
学科長等	(ヤマサキ エイチ) 山崎 英一 (平成20年4月)	(ミウラ イツエ) 三浦 伊都枝 (平成22年11月)	体調不良による変更(23) (平成22年11月)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 平成20年度に報告済の内容 → (20)
平成23年度に報告する内容 → (23)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください。
 ・ 様式は, 平成20年度開設の4年制の学科の場合(平成23年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
人文社会学部 英語文化学科 学士(人文社会学)	4年	100人	3年次 0人	400人	

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	100人 (-) [-]	0人 (-) [-]	100人 (-) [-]	0人 (-) [-]	100人 (0) [-]	0人 (-) [-]	100人 (0) [-]	0人 (-) [-]	100人 (0) [-]	0人 (-) [-]	0.96倍	
志願者数	354 (-) [0]	0 (-) [-]	254 (-) [0]	0 (-) [-]	213 (4) [0]	0 (-) [-]	309 (1) [0]	0 (-) [-]	309 (1) [0]	0 (-) [-]		
受験者数	335 (-) [0]	0 (-) [-]	236 (-) [0]	0 (-) [-]	193 (4) [0]	0 (-) [-]	293 (1) [0]	0 (-) [-]	293 (1) [0]	0 (-) [-]		
合格者数	309 (-) [0]	0 (-) [-]	224 (-) [0]	0 (-) [-]	180 (3) [0]	0 (-) [-]	268 (0) [0]	0 (-) [-]	268 (0) [0]	0 (-) [-]		
B 入学者数	130 (-) [0]	0 (-) [-]	82 (-) [0]	0 (-) [-]	81 (3) [0]	0 (-) [-]	91 (0) [0]	0 (-) [-]	91 (0) [0]	0 (-) [-]		
入学定員超過率 B/A	1.30		0.82		0.81		0.91					

- (注) ・ () 内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
 ・ 「平成23年度」には, 平成23年5月1日現在の状況を記入してください。
 ・ 「平成20~22年度」には, 確定した数値を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[-] 130	[-] 0	[-] 83	[-] 0	[-] 81	[-] 0	[-] 92	[-] 0	平成21年度2年次生について、学則第40条(転学部転科)により平成20年5月1日付で1年次学生数は130名であったが、上記制度により1名が英語文化学科へ転入し、3名が他学部・学科へ転出した。また、退学により6名が減少し、更に平成20年度入学生1名が休学したため、当該学生を1年次生に参入した結果、最終的には平成21年度2年次生は121名となった。(21) 平成22年度の2年次生において、他学部・他学科に転出が1名、退学者3名により計4名が減少。前年度2年次の休学者が1名おり、2年次在学者数は80名となる。平成22年度3年次生において、3名が編入し、休学者1名、退学・除籍者が9名となり10名減少し、現在3年次在籍者数は114名となる。(22) 平成23年度入学生は91名だが、平成22年度入学生1名が休学後、復学したため、1年次生は92名となる。平成23年度2年次生は休学者1名のため80名となる。平成23年度3年次生においては、退学者5名、除籍者1名、休学者1名のため73名となる。平成23年度4年次生においては、退学者4名、除籍後の復籍者1名のため111名となる。(23)
2年次	/		[-] 121	[-] 0	[-] 80	[-] 0	[-] 80	[-] 0	
3年次			/		[-] 114	[-] 0	[-] 73	[-] 0	
4年次					/		[-] 111	[-] 0	
計							[-] 130	[-] 204	

(注) ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学整数**を記入してください。
- ・ 「平成23年度」には、平成23年5月1日現在の状況を記入してください。
- ・ 「平成20～22年度」には、確定した数値を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	退学者数 (a)	在学者数 (b)	入学者に対する 退学者数の割合 (a/b)
平成20年度 (平成20年4月1日～ 平成21年3月31日)	計 [0]	(累積)計 [0] 130	4.6%
	うち平成20年度入学者 6人	うち平成20年度 130人	
	(主な退学理由) 経済的理由 1 勉学意欲の喪失 3 就職 1 他大学への入学 1		
平成21年度 (平成21年4月1日～ 平成22年3月31日)	計 [0]	(累積)計 [0]	4.9%
	うち平成20年度入学者 7人	うち平成20年度 124人	
	うち平成21年度入学者 3人	うち平成21年度 82人	
(主な退学理由) 他大学への入学 3 専門学校への入学 2 留学 1 勉学意欲の喪失 2 除籍 2			
平成22年度 (平成22年4月1日～ 平成23年3月31日)	計 [0]	(累積)計 [0]	4.0%
	うち平成20年度入学者 4人	うち平成20年度 117人	
	うち平成21年度入学者 6人	うち平成21年度 79人	
	うち平成22年度入学者 1人	うち平成22年度 81人	
(主な退学理由) 就職 3 除籍 1 専門学校への入学 3 他大学への入学 1 勉学意欲の喪失 2 転出 1			

(注)・各年度の退学者数・在学者数については、該当年度間(例えば、平成22年度であれば、平成22年4月1日から平成23年3月末まで)の状況を記載してください。また、数字については確定した数値を記入してください。

- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度における退学者数】を、【当該対象年度の入学者数+当該対象年度前年度までの確定した**在学者数**】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。なお、参考までに例示を添付しますので、そちらをご参照ください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に、その人数も含めて記入してください。
 - ・ 就学意欲の低下
 - ・ 学力不足
 - ・ 他の教育機関への入学・転学
 - ・ 海外留学
 - ・ 就職
 - ・ 学生個人の心身に関する事情
 - ・ 家庭の事情
 - ・ 除籍
 - ・ その他

2 授業科目の概要

<人文社会学部 英語文化学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数					専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
基礎教育科目	仏教Ⅰ（瞑想）	1前	1										学生の学習効果を高める理由により、配当年次を変更（21）	
	仏教Ⅱ（瞑想）	1後	1											
	仏教Ⅲ（写経）	2前	1											
	仏教Ⅳ（写経）	2後	1											
	聖徳太子概説	1前/後	2											学生の学習効果を高める理由により、配当年次を変更（21）
	人権・同和問題論	1・2前/後 1・2・3	2											
共通教育科目	情報処理演習Ⅰ	1前/後		2			1						学生指導の充実を図るため、専任教員の増員（21） ※1	
	情報処理演習Ⅱ	1前/後		2										
	数学演習Ⅰ	1前/後		2									学生の学習効果を高める理由により開講学期を変更（22）	
	数学演習Ⅱ	1前/後 1後		2										
	数学演習Ⅲ	1前/後		2									学生の履修機会を拡げるため開講学期を変更（23）	
	数学演習Ⅳ	1前/後		2										
	生命の科学	1・2前/後		2									※2	
	環境の科学	1・2前/後		2										
	化学の世界	1・2前/後		2									※2	
	物理の世界	1・2前/後		2										
	地球と宇宙	1・2前/後		2									集中	
	先端技術	1・2前		2										
	ドイツ語Ⅰ	1前		1									※3	
	ドイツ語Ⅱ	1後		1										
	ドイツ語Ⅲ	2前		1										
	ドイツ語Ⅳ	2後		1										
	フランス語Ⅰ	1前		1										
	フランス語Ⅱ	1後		1										
	フランス語Ⅲ	2前		1										
	フランス語Ⅳ	2後		1										
	中国語Ⅰ	1前		1										
	中国語Ⅱ	1後		1										
	中国語Ⅲ	2前		1										
中国語Ⅳ	2後		1											
日本語Ⅰ	1前 未開講		1									通常開講（23） 履修希望者がいなかったため（21）（22）		
日本語Ⅱ	1後 未開講		1									通常開講（23） 履修希望者がいなかったため（21）（22）		
日本語Ⅲ	1後		1									クラス担任数減に伴い、専任教員数を調整（23）		
日本語Ⅳ	2前		1											
大学基礎演習	1前		2				3 4	2				初年次教育科目が全学共通の一般科目となり、新たに開設したため（21）		

専 門 教 育 科 目						1		学生の履修状況に応じて、専任教員数を調整 (23)
		2前/後				2	2	学生指導の充実を図るため、専任教員の増員 (22)
	英書講読Ⅱ (文化)	2前	2		4	4		学生指導の充実を図るため、学期を変更、専任教員を変更 (23) 教育効果を高めるため、平成22年度よりIsted教授より坂本准教授に担当者変更した (22) 平成21年4月より、原田保教授が入試・広報部長に就任したため、兼任の石原田教授に担当者を変更したため (21)
	英書講読Ⅲ (社会)	2後 2前/後	2		1	1		
	英書講読Ⅳ (科学)	2後	2					
	英米文化論Ⅰ (米国)	3前	2		1			
	英米文化論Ⅱ (英国)	3後	2		1			
	英米文学論Ⅰ (現代文学)	3前	2		1			
	英米文学論Ⅱ (児童文学)	3後	2		1			
	キリスト教文化論	3後	2					
	英文法Ⅰ	1前	2		1			
	英文法Ⅱ	2後	2		1			
	英語史	1前	2		1			
	英語学	2後	2		1			
	英語音声学	1後			1			
	音声学	1後	2					
	時事英語	2後	2			1		
		3前						※1
	翻訳演習	2前 3前	2			1		学生の学習効果を高める理由により開講年次変更 (23) 学生の学習効果を高める理由により開講学期を変更 (22)
	英語学概説	2前 2後	2		4	1		学生の学習効果を高める理由により開講学期変更 (23) 村上教授退職に伴い担当者変更 (22)
	英書講読Ⅴ (言語)	3前/後	2		1	1		学生の履修状況に応じて、専任教員数を調整 (23) 学生の学習効果を高める理由により開講年次・学期を変更 (22) (23)
	英文学史	1前	2		1			
	米文学史	1後	2		1			
英語教育概説	1後	2			1			
英語教育論	3後	2			1			
英書講読Ⅰ (文学)	2前/後 3前/後 2前/後 3前/後	2		1	2			
英書講読Ⅵ (英語教育)	3後	2		4	1			
英語文化特殊講義	2・3前/後 2前	2		3	2			
英語スピーチ	3 1前/後	2		5	1			
英語とキャリア	1後	2		1			学生の学習効果を高める理由により開講学期を変更 (23) 学生指導の充実を図るため、専任教員を増員 (22)	

専 門 教 育 科 目	英語情報処理Ⅰ	1後		1						4	学生の履修状況に応じて、専任教員数を調整し、兼任講師が担当 (23) 学生指導の充実を図るため、専任教員を増員 (21)		
	英語情報処理Ⅱ	2前		1						4	学生の履修状況に応じて、専任教員数を調整し、兼任講師が担当 (23) 学生指導の充実を図るため、専任教員を増員 (21)		
		2前										学生の学習効果を高める理由により開講年次・学期を変更 (23)	
	ビジネス英語	2後		2						4	学生の学習効果を高めるため、担当者を変更 (21)		
	通訳入門	2後		2		1					1	学生指導の充実を図るため、専任教員を増員 (22)	
												学生指導の充実を図るため、専任教員1名の内兼任の外国人講師に担当者を変更した (22)	
	実務文書Ⅰ	3前		2						2	4	学生指導の充実を図るため、専任教員を増員 (21)	
	実務文書Ⅱ	3後		2						2	4	学生指導の充実を図るため、専任教員2名を兼任の外国人講師に担当者を変更 (22) 学生指導の充実を図るため、専任教員を増員 (21)	
	上級総合英語Ⅰ	4前		2		1				2	1	学生の履修状況に応じて、専任教員数を調整 (23)	
	上級総合英語Ⅱ	4後		2		4				2	2	学生の履修状況に応じて、専任教員数を調整 (23)	
	英語演習Ⅰ	1前	2			2				1		教育効果の充実を図るため、担当教員を追加 (22)	
	英語演習Ⅱ	1後	2			2				1	3	教育効果の充実を図るため、担当教員を変更 (22)	
	英語演習Ⅲ	2前	2			2				1		学生指導の充実を図るため、専任教員を増員 (23)	
	英語演習Ⅳ	2後	2			2				1		学生指導の充実を図るため、専任教員を増員 (23)	
	リスニング・スピーキングⅠ	1前	2			1				1			
	リスニング・スピーキングⅡ	1後	2			1				2	4	学生指導の充実を図るため、専任教員を増員 (23)	
												1	学生の履修状況に応じて、専任教員数を調整 (23)
	リスニング・スピーキングⅢ	2前		2						2		2	学生の履修状況に応じて、専任教員数を調整 (23)
	コミュニケーション	2前	2							2		2	
	リーディング	1前	2			1				4			教育効果の充実を図るため、担当教員の変更 (22)
	ライティング	1後	2			1				2		2	学生指導の充実を図るため、専任教員を増員 (23)
	上級リーディング	2後	2							2	4	2	教育効果の充実を図るため、担当教員の追加 (22) 教育効果の充実を図るため、担当教員を兼任講師に変更 (21)
													1
上級ライティング	2後	2							2		2		
コミュニケーションスキルⅠ	3前	2							2		2		
コミュニケーションスキルⅡ	3後	2							2		2		

専 門 教 育 科 目	講読演習Ⅰ	3前	2			3 6 5				学生の履修状況に応じて、専任教員数を調整 (23) 教育効果の充実を図るため、担当教員を追加 (22)
	講読演習Ⅱ	3後	2			3 6 5	3 1			学生の履修状況に応じて、専任教員数を調整 (23) 教育効果の充実を図るため、担当教員を追加 (22)
	講読演習Ⅲ	4前	2			6 -4 5	3 1			学生指導の充実を図るため、専任教員を増員 (23) 村上教授退職に伴い担当者の変更 (22)
	講読演習Ⅳ	4後	2			6 -4 5	3 1			学生指導の充実を図るため、専任教員を増員 (23) 村上教授退職に伴い担当者の変更 (22)
	卒業研究	4後		4		6 -4 5	3 1			学生指導の充実を図るため、専任教員を増員 (23) 村上教授退職に伴い担当者の変更 (22) 研究指導

- (注) ・ 届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成22年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 「配当年次」について、届出時に開講時期を記載する必要がなかった学部等(平成19年度届出以前)についても、届出時の状況を黒字で記載してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても、「(1) 授業科目表」にはその状況を反映させてください。(ただし、「(3) 未開講科目」欄には記載する必要はありません。)

(2) 授業科目数

届出時の計画				変更状況				備 考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	・一般科目の必修科目が1科目増加。全学共通の初年次教育科目を追加したため。(21) ・教員免許取得に必要な介護等体験を単位化しないことになった為(22)
23	98		121	24	97	-	121	
				[+1]	[Δ1]	[-]	[0]	

- (注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[] 内に、設置認可時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：Δ1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 届出時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。(ただし, 未開講科目があった場合は, (1)「授業科目表」にその状況を反映させてください。)

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	介護等体験研究	2	2・3・4	一般	選択	教員免許取得に必要な介護等体験を単位化しないことを理由に科目を削除した。
2						
3						

- (注) ・ 届出時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

・ 「介護等体験研究」(2・3・4年次前期選択)に関しては, 教員免許取得に必要な介護等体験を単位化しないこととなったため, 廃止した。
 ・ 学生への周知方法については, オリエンテーションやガイダンスで履修要覧を使用し, 履修方法・内容について学生に周知した。(22)

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計 (1)}}{\text{届出時の計画の授業科目数の計 (121)}} = \boxed{0.00}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位までを記入してください。

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調査時 (22年2月)	<ul style="list-style-type: none"> ・四天王寺大学人文社会学部言語文化学科日本語日本文化専攻、社会学科の入学定員超過の是正に努めること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人文社会学部言語文化学科日本語日本文化専攻については、平成21年度入学生では定員超過率が1.88倍となり、4年間平均が1.46倍となってしまいました。平成22年度入学生では1.52倍と前年度比で改善に努めましたが、4年間平均では1.56倍にとどまっています。一方、同じ言語文化学科の中国語アジア文化専攻については、平成22年度入学生では定員超過率が0.32倍となり、3年間（平成20年度～平成22年度）の平均は0.31倍となりました。したがって、言語文化学科全体の4年間平均の入学定員超過率は1.01倍です。 なお、学生指導について支障がないよう日本語日本文化専攻専任教員を現在11名に増員しました。 さらに、平成23年4月施行するべく言語文化学科間での専攻間の定員変更（日本語日本文化専攻50名→70名、中国語アジア文化専攻50名→30名）に係る学則を変更しました。但し、これらの改善だけではよしとせず、適正な入学者数にするよう今後なお一層努めます。(22) ・人文社会学部社会学科については、平成21年度入学生では定員超過率が1.33倍となり、4年間平均についても1.31倍となってしまいました。平成22年度入学生では合格者の絞り込みを行い是正に努めた結果、定員超過率は1.10倍となり、4年間平均についても1.29倍となりました。 今後、なお一層入学予定者の予測を誤ることなく、適正な入学者数にするよう努めます。(22) 	

		<p>・人文社会学部言語文化学科日本語日本文化専攻については、平成23年4月1日付にて、言語文化学科間での専攻間の入学定員変更（日本語日本文化専攻50名→70名、中国語アジア文化専攻50名→30名）に係る学則を変更いたしました。これにより、平成23年度入学生の定員超過率は0.97倍となり、大幅な改善が達成できました。しかし、4年間の平均入学定員超過率は1.49倍となりました。</p> <p>今後、なお引き続き適正な入学者数にするよう一層努めます。(23)</p> <p>・人文社会学部社会学科については、平成23年度入学生では定員超過率が1.26倍となり、4年間平均についても1.26倍となりました。</p> <p>今後、なお一層入学予定者の予測を誤ることなく、合格者を絞り込み適正な入学者数にするよう努めます。(23)</p>	
設置計画履行状況調査時 (23年2月)	留意事項なし		

- (注) ・「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料を添付してください。
- ・ 入学定員超過に係る留意事項への履行状況については、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。